



平成31年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年11月12日

上場会社名 KeePer技研株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 6036 URL <http://www.keepercoating.jp/corp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷 好通
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役事業サポート本部長 (氏名) 永田 裕一 (TEL) 0562-45-5258
 兼店舗開発部長
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年6月期第1四半期の業績(平成30年7月1日～平成30年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年6月期第1四半期	1,939	10.8	212	1.6	216	3.0	130	△2.1
30年6月期第1四半期	1,750	0.8	209	△14.8	209	△15.3	133	△14.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
		円 銭		円 銭				
31年6月期第1四半期		9.26		9.24				
30年6月期第1四半期		9.47		9.43				

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	
	百万円	百万円	%	
31年6月期第1四半期	6,813	4,372	64.2	
30年6月期	6,953	4,368	62.8	
(参考) 自己資本	31年6月期第1四半期	4,372百万円	30年6月期	4,368百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年6月期	—	0.00	—	9.00	9.00
31年6月期	—	—	—	—	—
31年6月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年6月期の業績予想(平成30年7月1日～平成31年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,499	13.7	779	11.2	788	11.1	518	11.1	36.76
通期	8,304	13.5	1,011	16.0	1,028	15.5	667	14.7	47.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

31年6月期1Q	14,102,020株	30年6月期	14,102,020株
31年6月期1Q	78株	30年6月期	78株
31年6月期1Q	14,101,942株	30年6月期1Q	14,085,942株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日）におけるわが国の経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続く中で個人消費にも持ち直しの動きが見られるなど、穏やかな回復が続いています。

当社ではこのような環境の中、ユーザーに提供されるKeePerコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerブランドのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えております。

当第1四半期においては7月と8月は比較的好天が続きました。7月の売上高は7億59百万円（前年同月比23.4%増加）と増加し、営業利益は1億33百万円（同68.8%増加）と大きく増加し、経常利益も1億33百万円（同69.5%増加）と増加しました。

続く8月も売上高は6億74百万円（前年同月比12.7%増加）、営業利益は96百万円（同28.2%増加）と増加し、経常利益も96百万円（同28.9%増加）と増加しました。このように当第1四半期におけるスタートを順調極まりなく切り、翌月も順調に進んだのです。

しかし最終の9月においては毎週末に大型台風が日本列島を襲うという観測史上稀に見る異常気象があり、最も多くの直営店舗がある名古屋においては降雨量が前年同月比340%に当たる365.5mlが降るなど全国的に大荒れの天候となり、来店客数が大きく減少するなどして売上高は5億5百万円（前年同月比5.8%減少）と減少し、営業損失は16百万円、経常損失は14百万円と瞬間的に欠損を計上することとなりました。

その結果、初めの2か月間の好調があったものの当第1四半期累計期間における売上高は19億39百万円（前年同期比10.8%増加）と増加するも、営業利益は2億12百万円（同1.6%増加）と前年比で微増にとどまり、経常利益は2億16百万円（同3.0%増加）、四半期純利益は1億30百万円（同2.1%減少）となりました。

①キーパー製品等関連事業

キーパー製品等関連事業における最大の顧客先である石油販売業界では、業界最大のJXエネルギー株式会社と東燃ゼネラル石油株式会社の統合による一時的な混乱によって、油外商品の販売に力が入らなかった時期があり、前期においては油外商品の代表的商品の一つであるキーパー製品によるキーパーコーティングも正常な販売から減速する場面がありました。

しかし、時間と共に油外商品の販売活動も正常に戻りつつあり、当第1四半期において、キーパー製品等関連事業の売上が7月は4億49百万円（前年同月比21.7%増加）と増え、8月も3億91百万円（同7.4%増加）と着実に復調の兆しを見せております。9月はさすがに悪天候に阻まれて2億73百万円（同15.5%減少）と落としています、10月以降確実に大きく取返しています。

このJXエネルギー株式会社と東燃ゼネラル石油株式会社との経営統合の影響は、キーパープロショップの登録店舗数にも影響を与えております。日本国中のガソリンスタンドの約半数を占めていた両社の「エネオス」マークと「エッソ」「モービル」「ゼネラル」マークのガソリンスタンドは競合する場合も多く、片方の店舗を廃業して行かざるを得ず、その店舗がたまたまキーパープロショップの登録店であった場合、キーパープロショップも抹消せざるを得ない場合が出ております。

この8月の営業担当による「キーパープロショップ全店訪問、全店チェック」の活動により、そのような廃止（予定含む）の店舗の存在が明らかになっており、速やかに登録抹消の手続きを進めました。その間にも新たに登録される店舗もあり、そのプラスマイナスによって前期末（平成30年6月30日）に5,769店舗あったキーパープロショップは現時点（平成30年11月1日）において5,752店舗に微減しています。

また、キーパー製品等関連事業におきましては、全国のキーパープロショップを対象にした「夏のキーパー選手権」を平成30年8月に開催しました。この選手権には全国約3,500店舗が参加して施工台数を競いました。今回の選手権のトピックスはJXTGエネルギー直系の大手株式会社ENEOSウイングが「まず、技術だ」を掛け声にして、全社を上げて選手権に挑んでいただき、販売ポイント数全国ベスト100の中になんと60店舗も入る驚異的な成績を収められ、その結果、全国ベスト100の平均獲得ポイントが前年比で150%にアップするなど、多大なる貢献をされました。この成績がエネオスマークのガソリンスタンドに大きな影響を与え、この株式会社ENEOSウイングを良きライバルとしてKeePerの増販に意欲を持った販売会社が増えております。

また、キーパープロショップとユーザーのコミュニケーションツールとして、キーパープロショップのWebページ

上に、ブログ機能を新たに追加し、運用をスタートしております。

これらの結果、当セグメントの当第 1 四半期累計期間における売上高は11億15百万円（前年同期比5.4%増加）、セグメント利益は2億40百万円（同28.5%増加）となりました。ただし、内部取引による利益が45百万円含まれており、内部取引控除後の利益は1億94百万円（同30.6%増加）となります。

②キーパーLABO運営事業

キーパーLABO運営事業においては、同じように9月の台風ラッシュと長雨には苦しめられたものの、7月の売上高が3億9百万円（前年同月比26.0%増加）と増え、8月も2億82百万円（同20.9%増加）と着実に伸ばし、荒れた9月においても2億31百万円（同9.1%増加）とわずかながらも伸ばしております。

もちろんこれは急激に進めている新店増の効果が大きい訳であり、今年度においても引き続き新店の開発に力を入れてまいります。

これらの結果、当セグメントの当第 1 四半期累計期間における売上高は8億23百万円（前年同期比19.1%増加）、セグメント利益は18百万円（同70.1%減少）となりました。ただし、内部取引による費用が45百万円含まれております。

(2018年7月以降の新店及び確定済出店計画)

開店時期	店名	住所
2018年8月20日	市原店	千葉県市原市五井金杉1-34-1
2018年9月15日	鶴見店	大阪府大阪市鶴見区安田4丁目1-39
2018年11月下旬	平塚店（仮称）	神奈川県平塚市宮松町13-4
2018年11月下旬	蕨店（仮称）	埼玉県蕨市錦町1-1-29
2018年11月下旬	出来町店（仮称）	愛知県名古屋市中区出来町3-4-20
2019年1月上旬	東雲店（仮称）	広島県広島市南区東雲3-13-10
2019年3月下旬	松阪店（仮称）	三重県松阪市久米町1174-13（ジェームス松阪三雲店）

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第 1 四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ1億39百万円減少し、68億13百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1億33百万円減少、売掛金が58百万円減少、新規出店等により有形固定資産が37百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第 1 四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ1億43百万円減少し、24億41百万円となりました。これは主として、買掛金が47百万円減少、未払法人税等が25百万円減少、未払金が54百万円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第 1 四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ4百万円増加し、43億72百万円となりました。これは主として利益剰余金が四半期純利益により1億30百万円増加した一方で、配当により1億26百万円減少したこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年6月期の業績予想につきましては、平成30年8月10日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,824,866	1,691,081
受取手形	159,428	172,951
売掛金	600,274	542,014
商品	477,016	454,379
貯蔵品	26,630	26,767
前払費用	123,812	85,721
その他	3,811	11,105
貸倒引当金	△229	△215
流動資産合計	3,215,610	2,983,805
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,162,148	2,191,186
構築物（純額）	147,369	155,781
機械及び装置（純額）	87,566	87,221
車両運搬具（純額）	22,849	23,757
工具、器具及び備品（純額）	112,000	114,014
土地	458,140	458,140
建設仮勘定	2,744	155
有形固定資産合計	2,992,820	3,030,257
無形固定資産		
ソフトウェア	40,876	40,205
その他	23,713	23,147
無形固定資産合計	64,589	63,353
投資その他の資産		
投資有価証券	16,722	17,290
長期前払費用	32,876	32,747
敷金及び保証金	303,484	302,655
建設協力金	148,489	174,114
保険積立金	13,091	13,091
繰延税金資産	155,857	176,474
その他	10,286	20,370
貸倒引当金	△276	△360
投資その他の資産合計	680,532	736,383
固定資産合計	3,737,942	3,829,994
資産合計	6,953,552	6,813,799

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	195,484	147,720
1年内返済予定の長期借入金	160,439	108,091
未払金	256,511	201,523
未払法人税等	139,658	113,758
未払費用	135,234	127,764
賞与引当金	22,631	90,525
その他	77,027	57,194
流動負債合計	986,986	846,576
固定負債		
長期借入金	1,071,923	1,051,962
退職給付引当金	192,385	204,689
役員退職慰労引当金	227,213	231,323
資産除去債務	102,852	103,022
その他	4,043	4,043
固定負債合計	1,598,417	1,595,040
負債合計	2,585,404	2,441,617
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,345,867	1,345,867
資本剰余金	1,007,224	1,007,224
利益剰余金	2,013,890	2,017,591
自己株式	△61	△61
株主資本合計	4,366,920	4,370,621
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,227	1,560
評価・換算差額等合計	1,227	1,560
純資産合計	4,368,148	4,372,182
負債純資産合計	6,953,552	6,813,799

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成30年7月1日 至平成30年9月30日)
売上高	1,750,314	1,939,121
売上原価	480,568	505,292
売上総利益	1,269,746	1,433,828
販売費及び一般管理費	1,060,231	1,220,860
営業利益	209,514	212,968
営業外収益		
受取利息	213	235
受取手数料	806	1,669
受取保険金	—	3,765
その他	314	280
営業外収益合計	1,334	5,951
営業外費用		
支払利息	1,062	1,905
為替差損	37	910
営業外費用合計	1,100	2,815
経常利益	209,748	216,104
特別利益		
固定資産売却益	55	9
特別利益合計	55	9
特別損失		
災害による損失	—	3,765
固定資産除売却損	—	2,409
特別損失合計	—	6,174
税引前四半期純利益	209,804	209,939
法人税、住民税及び事業税	77,767	100,082
法人税等調整額	△1,340	△20,761
法人税等合計	76,427	79,320
四半期純利益	133,376	130,618

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

前第 1 四半期累計期間 (自 平成29年 7 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,058,603	691,710	1,750,314
セグメント間の内部 売上高又は振替高	63,026	—	63,026
計	1,121,629	691,710	1,813,340
セグメント利益	187,247	60,283	247,531

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	247,531
セグメント間取引消去	△38,016
四半期損益計算書の営業利益	209,514

(注) セグメント間の内部売上高63,026千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益187,247千円には、セグメント間の内部売上高による利益38,016千円を含んでおります。

当第 1 四半期累計期間 (自 平成30年 7 月 1 日 至 平成30年 9 月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,115,373	823,747	1,939,121
セグメント間の内部 売上高又は振替高	76,404	—	76,404
計	1,191,778	823,747	2,015,526
セグメント利益	240,636	18,032	258,669

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	258,669
セグメント間取引消去	△45,700
四半期損益計算書の営業利益	212,968

(注) セグメント間の内部売上高76,404千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益240,636千円には、セグメント間の内部売上高による利益45,700千円を含んでおります。